



ウェスタン・ミシガン大学での水理地質学実地コースで地震探査を行う
FUTIスカラシップ受賞者（東大博士課程学生）Mahmoud Khalil（右）



琵琶湖でプランクトン網を投げる
UTRIP参加者Pramodh Ganapathy

2014年度受賞者についての詳細は…p.3



Friends of UTokyo, Inc.
東大友の会

2014年度報告書

目次

1. FUTI 組織表
理事長からのご挨拶
大学関係担当理事からのご挨拶
2. 2014年度スカラシップとインターンシップ・プログラムの報告
- 3 - 4. FUTI グローバル・リーダーシップ賞受賞者リスト
5. コロンビア大-東大の共同チームとバークレーのBCTP-東大
カブリIPMUのプログラムを、FUTIが引き続き研究支援
- 6 - 7. 東大でGSPとUTRIPの学生を迎えてレセプション
- 7 - 8. 2013 - 2014会計年度の募金結果と会計報告
8. 2013 - 2014会計年度財務諸表の要約
9. 2013 - 2014会計年度寄付者芳名録

FUTI 組織表

理事会

理事長 小林久志
プリンストン大学
名誉教授、元工学部長

総務担当 小林秀太
Senior Associate,
Pricewaterhouse Coopers
LLP

財務担当理事 桑間雄一郎
Mount Sinai Beth Israel、
東京海上記念診療所院長、
Icahn School of Medicine
at Mount Sinai 臨床准教授

大学担当理事 山田雅章
プリンストン・プラズマ
物理研究所、荣誉研究員

理事 濱田宏一
イェール大学名誉教授、
東京大学名誉教授

理事 江川雅子
東京大学理事

理事 伊藤澄子
Arcadia Capital, Inc. 社長、
ニューヨーク銀杏会副会長

名誉理事長 榊田淳二
Nagashima, Ohno &
Tsunematsu NY LLP
パートナー、ニューヨーク
銀杏会名誉理事長

名誉理事 小宮山宏
三菱総合研究所(株)
理事長、東京大学名誉総長

諮問委員会

岸岡駿一郎
シカゴ赤門会名誉会長、
ITA, Inc. 会長

ギータ・メータ
コロンビア大学教授
(非常勤)

岡本康夫
Hughes, Hubard & Reed
LLP パートナー、ニュー
ヨーク銀杏会理事長

桜井信子
Lotus Circle Asia
Foundation、アドバイザー

杉浦康之
北米三菱商事会社取締役社長

高橋規
米三井物産取締役社長

田村史子
Director of Transfer Pricing,
News Corp

コー・ヤン・タン (董 克勇)
Morrison Foerster 上席顧問
(Senior Counsellor)

選考委員会

委員長

山田雅章
FUTI 大学担当理事、
プリンストン・プラズマ
物理研究所、荣誉研究員

委員

小林久志
FUTI 理事長、
プリンストン大学
名誉教授、元工学部長

松下重恵
Japan Wink
Communications、元社長、
Member of the Japanese
Computer Pioneers

大迫政子
FUTI スタッフ、Executive
Director of International
Longevity Center Global
Alliance (ILC) Secretariat、
さつき会アメリカ幹事

桜井信子
FUTI 諮問委員、
Lotus Circle Asia
Foundation、アドバイザー

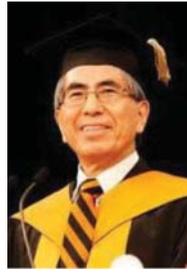
ウェブマスター

エイミ・ヴァイダ
Amy I Productions

英文エディター

ブライアン・マーク
ジョージ・メイソン大学
教授

理事長からのご挨拶



「東大友の会」(Friends of UTokyo, Inc. 略称 FUTI) は当初 Friends of Today, Inc. (FOTI) という名称でしたが、東京大学が英語での略称を Today から UTokyo に変更したのに呼応して 2014 年 5 月に改名しました。ニューヨークを初め世界各地に銀杏会、赤門会、東大友会など、東大卒業生の交流と親睦を図るグループが卒業生有志により設立されておりますが、FUTI は小宮山宏前総長の発案で、榊田淳二氏を初代理事長として 2007 年秋に設立され、2008 年に New York 州の Charity Bureau 及び IRS から認定を得た非営利団体であり、東京大学と米国大学の間での学生の交換や共同研究を支援することにより、東京大学の国際化と日米間の学術文化交流の高揚を目的としております。詳細は私共のウェブサイト <http://www.todaitomonokai.org> をご覧ください。

FUTI の活動の資金はすべて、同窓生と Friends (同窓生以外の有志の方々) と法人(現時点では信越化学の米国子会社、シンテック社のみ) からの寄付であり、理事長を初め全ての理事、諮問委員、選考委員は無報酬で奉仕しております。当報告書の 3 ページから 4 ページに掲載された将来日本や米国でリーガーとなり得る若い人材の発掘と彼等の育成を目指す FUTI の活動の意義にご賛同いただき、今後とも、皆様から温かいご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

理事長 小林久志

大学関係担当理事からのご挨拶



2011 年夏から本格的に始まった FUTI グローバル・リーガシップ賞(夏季プログラム奨学金) プログラムは東大生はもとより、米国の主要大学の学生達にも、その知名度が上がってまいりました。2014 年夏の奨学生 21 名を加えますと、受賞者は累計 72 人(東大生 37 人、米国大学生 35 人)になります。

研究助成の面では、アメリカにおける日本研究への関心の復興を目指す「東大・イェール・イニシアティブ」を 2010 年より 2 年間援助し、2011 年からは、宇宙の謎を解き明かす物理学・数学を研究する東大の「カブリ IPMU」とカリフォルニア大学バークレー校の「理論物理研究センター」の若手研究者の交流援助(当報告書 6 ページ参照)、2012 年からは、コロンビア大学と東大が共同で始めた「凝縮物質物理の大学院生向けのカリキュラム」の開発や受講に参加する両大学の大学院生の渡航・滞在費などに使う助成金を出してきました(同 7 ページ参照)。

東大の国際化プログラムも着々と拡大・多様化しており、それを支援する FUTI の役割に寄せる期待と要求もこれから更に高まることと思います。今後、皆様からこれまで以上のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

大学関係担当理事 山田雅章

2014年度スカラシップとインターンシップ・プログラムの報告



イエール大学での英語研修
(写真提供、林泉さん)

の学生1人が東大・イノベーション・サマー・プログラム (TISP) に、プログラム (GSP) に参加しました。さらに、東大「教養学部英語コース」(PEAK) に2014年秋から入学したニューヨーク市のスタイヴァサン高校卒業生1人にFUTIからトラベル奨学金が授与されました。

アメリカで夏を経験した13人の東大生は異句同音に「授業からも、教室の外でも大変多くを学んだ。世界と日本についての視野を大きく広げることができ、将来のキャリア・プランを再考する良い機会になった」と述べています。この夏を米国で過ごした東大生の多くが米国の大学院留学やポスト・ドク研究員への道を真剣に考え始めているようです。米国大学からの7人の学生は東大で貴重な研究技術と経験を体得し、東大と、そのプログラム、そして日本の文化と社会に対し、大変好意的な印象をもつことのできた「最高の夏だった」と全員報告しています。

これら日米の学生たちが将来グローバルリーダーとして世界を担っていく人材に成長されていくことを期待しています。FUTIのプログラムに携わった東大および米国大学の教授陣およびプログラム担当の方々に厚くお礼を申し上げます。また、FUTIに多額の寄付を下された米国および日本の方々と米国シンテック社に深く感謝致します。



UTRIP相原博昭教授インターンシップ
(写真提供：Thong Nguyen)

ニューズレターの第10号及び第11号で報告しましたように、13人の東大生と8人の米国学生がFUTIグローバル・リーダーシップ賞 (FUTI-GLA) を受賞しました。

東大生13人中3人はイエール大学、カリフォルニア大学 (UC) バークレー校での英語研修講座、2人はUCバークレーでのGSP、他の8人はハーバード大学、オハイオ州立大学、UCバークレー、UCLA、ウェスタン・ミシガン大学、イエール大学での様々なサマー・コースに参加しました。

一方米国からのFUTI-GLA受賞者8人のうち4人は東大理学部インターンシップ・プログラム (UTRIP) に参加しました。この4人は全米各地からの応募者74名の中から選抜されました。UCバークレーイエール大学の学生2人が東大でのグローバル・サマー・



東大でのGSPコース「ナノサイエンス」
実験室を訪問(写真提供：Julie Chang)

受賞者の名前、顔写真、大学名、専攻学科、参加したサマープログラムは次のページに掲載してあります。受賞者達の「現場からの報告」はFacebook www.facebook.com/friendsofutokyo (7月—9月) でご覧になれば、彼等の最終報告書は、www.friendsofutokyo.org/category/recipient でご覧になれます。

FUTI グローバル・リーダーシップ賞受賞者リスト

東京大学の学生



千葉 滋

理科三類 2年

UC バークレーでの英語研修



藤永 清乃

総合文化研究科言語情報科学修士 2年

UC バークレーでのサマーコース



藤田 彩也香

教育学研究科臨床心理学修士 2年

オハイオ州立大学での
Project Narrative Summer Institute



林 泉

機械情報工学科 3年

イエール大学での英語研修



井上 茜

教養学科-北アメリカ研究コース 4年

UCLA Anderson School of
Management でのサマースクール



岩田 大輝

都市工学修士 2年

UC バークレーでのサマーコース



柿沼 優花

経済学部経営学科 3年

UC バークレーでのサマー・コース



Mahmoud Khalil

環境システム学専攻博士 3年

ウェスタン・ミシガン大学での
水理地質学実地コース



宮沢 哲

法学部修士 1年

UC バークレーでの GSP “Media
and Global Protest Movement”



瀬川 晶子

化学工学 4年

UC バークレーでの GSP
“Environmental Leadership Program”



谷川洋介

生物情報科学 3年

UC バークレーでの英語研修

宇田川晴加

文科二類 2年

ハーバード大学でのサマースクール



Xiaoxue Zang

理科一類 2年

イエール大学でのサマー・スクール

米国大学の学生



Jenny Yejin Byun

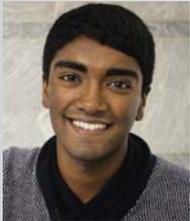
カリフォルニア大学バークレー校、
政治学と Integrative Biology、4年

東大 Innovation Summer Program

Julie Chang

イエール大学、生物医学工学、3年

東大での GSP “Nanoscience”



Pramodh Ganapathy

デューク大学、進化人類学 (第一専攻)
アジア&中東研究 (第2専攻)、4年

UTRIP 野崎久義教授

Kevin Hochstrasser

イエール大学、化学、3年

UTRIP 程久美子教授



Chiwu Ishido Kim

Stuyvesant 高校

東京大学 PEAK

Thong Nguyen

テキサス大学・グラス校、物理、3年

UTRIP 相原博昭教授



Taweewat Somboonpanyakul

シカゴ大学、物理 3年

UTRIP 田村元秀教授

Kevin Zhou

イエール大学、生物医学工学、3年

東大での GSP “Introduction to the
Japanese Language” と “Nanoscience”

コロンビア大-東大の共同チームとバークレーのBCTP-東大カブリIPMUのプログラムを、FUTIが引き続き研究支援

本年度もFUTIは、コロンビア大学と東大の凝縮物質物理学での教育プログラムの共同開発と学生の交流、および「宇宙解明のための数学と物理学」を研究しているカリフォルニア大学バークレー校と東大の共同プログラムを引き続き支援します。また同時にこれらのプログラムに関連して、大学院学生との交流だけでなく一般市民の科学に関する啓蒙活動などを支援しています。

凝縮物質物理の最前線 (F-CMP) で、コロンビア大学と東大の教育研究に於ける協力



東大など日本から訪問中の学生に講義する植村教授

コロンビア大学の植村泰朋 (Prof. Yasutomo Uemura) 教授が率いる同大学と東大の凝縮物質物理学の教育面での協力は、この数年成功裏に実施されて、FUTI もその一部を支援してきました。

2013年3月には、15人のコロンビア大の大学院生が、東大からビデオ放映された講義を受けた後、京都大学と、SPring-8 シンクロトロン装置を訪ね、その後一部の学生は京都と東京の文化を楽しみました。2014-2015年度は東大とコロンビア大の大学院生のために、4年目に入ったF-CMP コースの共同教育と両大学の大学院生の共同研究を計画しています。また去年はカナダにある TRIUMF とスイスの PSI の加速器を使って共同研究もしました。

今年度は上記の装置での研究に加え、日本の高エネルギー研究機構 (KEK) にある光子工場 (photon factory) と東大柏キャンパスの物性研究所のレーザー装置を使って協力研究が行われます。また京都大学の陰山洋教授と同大学院生・野崎保将さんの二人がコロンビア大学に招かれ、ミュオンのスピン緩和に関する実験を TRIUMF 装置で行う予定のほか、引き続き東大とコロンビア大の間で、数人の大学院生の交換訪問が計画されています。

東大カブリIPMUとバークレーのBCTPでの協力、交流、および啓蒙活動

東大のカブリ数物連携宇宙研究機構 (Kavli IPMU) とカリフォルニア大学バークレー校の BCTP (理論物理学バークレーセンター) による共同研究は、数学者、天文学者、物理学者が一緒に研究するユニークな環境を作っています。若い研究者達が科学分野での国際社会でキャリアを形成するためには、研究と文化の両方の面で (国際社会に) 触れることが極めて重要である事が実証されていますが、このことは東大の大学院生にとって特に重要で、この共同研究は、東京大学の国際的認知度を上げる事につながります。

去年は、バークレーの二人の学生が東大の Kavli-IPMU に一ヶ月滞在し、もう一人 (Brian Hennings さん) は一学期間滞在し、村山教授の「ビッグバンからダークエネルギーへ」 (From the Big Bang to Dark Energy) と云う日本から最初に発信されたオンラインコースの手伝いをしました。彼はこのコースのティーチング・アシスタントとして、デスクッション・フォーラムを担当し、宿題の問題の作成もしました。今年度も (Higgs 粒子ダークエネルギーなどのテーマで) 同様の大学院生の交流が行われる予定です。



カリフォルニア大学バークレー校のブライアン・ヘニングスさんと東大の飛岡幸作さんは共同研究する為、互いに相手の大学を訪問した

また村山教授は、前年度北米のヴァンクーバー (オンラインで観れる) とサンタクルーズ (<http://news.ucsc.edu/2013/07/murayama-lecture.html>) の IMAX 劇場でそれぞれ、400人、200人の観客を対象にした公開講座で講演し、大変好評を得ました。2014年度も地域社会に貢献すべくサンフランシスコの日本領事館と協力して同様なイベントを計画しています。

東大でGSPとUTRIPの学生を迎えてレセプション



今年のグローバル・サマー・プログラム（GSP）の歓送迎パーティは東大の山上会館で7月11日に行われ、東大国際センター藤原帰一教授の開会挨拶で始まり、東大を含めて世界の10大学から参加した46名の学生全員が出席しました。外国の大学でのGSPに参加する東大の約20名の学生の殆どは既に日本を出ており、4名だけが出席しました。7名の東大教授と12名のスタッフも席を共にされました。



FUTIからは松下重恵氏（写真左端）と伊藤澄子氏（右端）が参加され、中央の二人は、FUTI奨学生で、Nanoscienceのコースにイェール大から参加したMs. Julie ChangとMr. Kevin Zhouです。

東大は英語で授業を行う次の4コースを提供し、カッコ内の人数の学生を受け入れました。日本語入門（9名。他のコース選択が必須）、Sustainable Urban Management（14名）、Japan in Today's World（12名）、Nanoscience（16名）。最初の2コースは6月30日から7月11日まで、あとの2コースは7月10日に始まり7月18日または23日まで。Japan in Today's Worldでは、日本の政治システムへの導入授業の後、Post Disaster Relief after the EarthquakeとTerritorial Disputes and Nationalismに関して、学生相互間および教授との間の討議が促されました。各大学は3名ないし6名の学生を東大に送り、奨学金はIARU、FUTI、各大学などから提供されました。

東大のUniversity-wide Student Exchange Program (USTEP) Officeの五所恵美子コーディネーターが流暢な英語でパーティを司会され、FUTI奨学生選考委員会を代表して松下氏が挨拶をされました。

UTRIP レセプション：

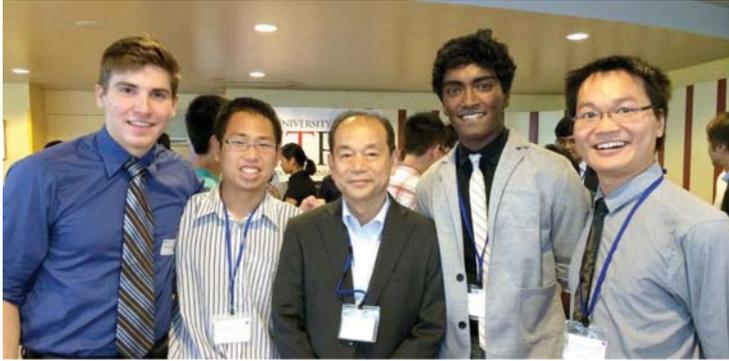
UTRIP (University of Tokyo Research Internship Program) 参加者へのレセプションは7月15日に東大病院の最上階で行われ、理学系研究科科長の五神真教授の開会の辞で始まりました。UTRIPは、東大理学部で夏季プログラムで、海外の才能ある3年生・4年生を招いて東大の大学院に親しんで貰うよう大学院教授が研究を指導します。物理学、天文学、化学、地球惑星科学、生物科学の5学科がプログラムを提供しています。

レセプションには世界中からの志願者495名の中からUTRIPに選ばれた29名の学生全員が出席しました。内10名が6月12日から7月23日までの前期参加者、19名が7月1日から8月8日までの後期参加者でした。国籍別で数えると、米国人8名（全員米国大学）、中国人6名（北京大4名、



カリフォルニア大とシンガポールのナンヤン工科大1名づつ)、タイ人3名(ケンブリッジ大2名、シカゴ大1名)、他10カ国から各1-2名。大学別では米国の大学12名(内5名はカリフォルニア大。外国人が3名)、英国の大学9名(内4名がケンブリッジ大。外国人が8名)、中国は北京大だけで4名、インドの2大学とシンガポールの2大学から各1名でした。

FUTIは今年米国大学の4名の学生に奨学金を授与しましたので、FUTIを代表して伊藤澄子氏と松下重恵氏が挨拶をされた。理学系研究科国際化推進室の作田千絵講師が素晴らしい英語で司会をし、学生全員が1分間づつスピーチをしました。



4名のFUTI奨学生は全員同席しました。写真の左から：アメリカ人のKevin Hochstrasser君はイェール大で生物科学専攻。タイ人のTaweewat Somboonpanyakul君はシカゴ大で天文学専攻。アメリカ人Pramodh Ganapathy君はデューク大で生物科学専攻。ベトナム人Thong Nguyen君はテキサス大学グラス校で物理専攻。中央は東大の山路渉外本部長。

FUTI奨学生選考委員会の松下氏は「選考委員会の新しいメンバーとして、私には、GSPとUTRIPのプログラムにもっと精通し、プログラムに参加している教授や学生達に会いお話する

ことが大事でした。この2つのパーティで、とりわけ次の点を強く感じました。学生全員、特にFUTI奨学生は、選考委員会で期待したように優秀で積極的で社会的に見えました。今から何十年か後の世界のリーダと会い、話をしているように感じました。将来のリーダは、GSPで見ると半数が女性で半数が東洋人、UTRIPで見ると1/3が女性で60%が東洋人になりそうです」と感想を述べ、更に「GSPで東大は外国から42名の学生を受け入れた反面、東大生は20名しか海外に出ませんでした。この数字は大体同じであるべきです。東大生の奨学金希望者を選考する過程で、多くの希望者がリピータであることが注目されました。東大生の国際化をもっと推進しなければならないと思います」と付け加えました。

2013 - 2014会計年度の募金結果と会計報告

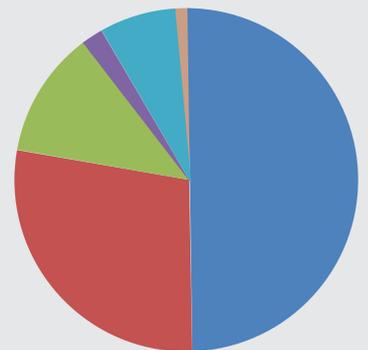
2013/14会計年度(2013年7月1日 - 2014年6月30日)の募金総額は約11万ドルでした。残念ながら、この結果は過去二年の収入、即ち13万9千ドル、13万1千ドルに比較して下回りました。このように収入がかなり減った主な理由は、シンテック社の信託基金を投資の対象となった米国国債の利子が引き続き下降し続けてきた結果です。

個人の寄付者の数は昨年の73人から59人へと19%も減りましたが、寄付の額は昨年の61,320ドルから56,660ドルへと7.6%の減少に留まりました。

円グラフは、個人からの寄付総額をグループ、地域別で分類した結果を示します。59人から頂いた56,660ドルの内訳は：理事及び諮問委員12名から28,000ドル、日本在住の卒業生20名から16,060ドル、ニューヨーク州、ニュージャージー州、コネティカット州の地域の方18名(上記の理事、諮問委員を除く)から6,750ドル、カリフォルニア州、ワシントン州の5名から4,100ドル、イリノイ州の2名から1,250ドル、テキサス州の2名から500ドルです。

この地域による分類は昨年の結果と似ていますが、カリフォルニア・ワシントン州、ニューヨーク・ニュージャージー・コネティカット州、日本からの寄付金額はそれぞれ3,300ドル、1,450ドル、540ドルずつ増加した一方で、

個人献金のグループや地域による内訳



2013 - 2014会計年度財務諸表の要約

貸借対照表 (単位:USドル)

固定資産	672	固定負債	0
パソコン (未償却分)	672		
流動資産	174,206	流動負債	0
当座預金、普通預金	173,938		
繰延資産	275	負債合計	0
未確定欠損	-7	資本合計	174,878
			174,878
資産合計	174,878	負債・資本合計	

損益計算書 (単位:USドル)

経常費用	107,537	経常収益	109,906
グラント(研究助成金、奨学金)	91,950	寄付金	109,616
業務費用	15,587		
		受取利息	290
経常利益	2,372		
2013-2014 会計年度初頭資産合計	172,506		
2013-2014 会計年度末資産合計	174,878		

2013年7月 - 2014年6月: \$56,660

- 理事会・諮問委員会(12)
- 日本の同窓生 (20)
- ニューヨーク州、ニュージャージー州、コネティカット州の同級生 (18)
- イリノイ州の同窓生(2)
- カリフォルニア州、ワシントン州の同窓生(5)
- テキサス州の同級生(2)

理事・諮問委員、イリノイ州からの寄付はそれぞれ 2,800 ドル、3,300 ドル減少しました。

「私達の活動を引き続き援助して下さるシンテック社及び個人の皆様に心より感謝致します。しかしサマー・スカラシップや、研究支援を来年も今年のレベルに維持する為には、支援者のベースを拡大しなければなりません。現会計年度もシンテック信託資金からの収入は低利率のため期待出来そうにありません。今後、私達の後輩である若い世代が、競争の激化する世界経済や、複雑になる国際政治事情に対処出来るグローバルな人材に成長するような体験を積めるようサポートするには、これまで以上に多くの同窓生とフレンズの皆様からの支援を、必死にお願いするしかありません」と小林久志理事長は述べる。

今年度の研究助成金および奨学金の支給額は \$91,950 であり、昨年度の \$94,500 よりも \$2,550 (2.8%) 抑えました。業務費用の \$15,587 を加えると、支出総額は \$ 107,537 となり、前年度の \$108,122 と略同額でした。今年度の経常利益は僅か \$2,372 でした。

2013 - 2014会計年度寄付者芳名録

法人	大久保貞義 \$1,000	Friends (\$250-\$499)	竹田欣克
Benefactor (\$25,000 以上)	尾島 巖 \$1,000	匿名 \$300	寺井真美
Shintech社† \$52,956.24	岸岡駿一郎 \$1,000	山田健一朗 \$250	徳久宗平
†5百万ドルの信託基金からの 今年度配当分	楠原千秋 \$1,000	匿名 \$250	Nhut Nguyen
個人	(故) 小林昭七 \$1,000	\$250未満のご寄付	濱田宏一
Sponsor (\$10,000-\$24,999)	杉山健一 \$1,000	宅間 董 \$200	藤崎哲之助
小林久志、正江 \$10,000	高木英明 \$1,000	浜田穰太郎 \$200	松下重恵, スミエ
Donor (\$1,000-\$9,999)	山崎舜平 \$1,000	川島義之 \$200	三浦宏一
榎田淳二 \$3,000	渡邊泰秀 \$1,000	匿名 \$100	森 繁
岡本康夫 \$2,500	匿名 \$1,000	匿名 \$100	吉里彰二
桑間雄一郎 \$2,500	Supporting Member (\$500-\$999)	匿名 \$100	吉原健吾
桜井本篤、信子 \$2,500	山路一隆 \$900	匿名 \$100	
浅見 徹 \$2,000	Ko-Yung Tung \$500	名前のみの方々 (五十音順)	
伊藤澄子* \$2,000	星 岳雄 \$500	今井健一	
大迫政子 \$1,500	小野雅之、咲子 \$500	浦田信夫	
山田雅章 \$1,500	吉田洋一 \$500	片山泰尚	
青木昭明 \$1,000	匿名 \$500	亀田寿夫	
石井一郎 \$1,000		芥藤 洋	
		佐藤奈穂子	

総計 2法人*、58人、 \$ 109,616.24

* ステート・ストリート銀行財団からマッチング・ギフトをいただきました。